

第 6 9 回
東北地方交通審議会
船員部会議事要録

平成 2 6 年 7 月 2 5 日
東北地方交通審議会
船員部会事務局

東北地方交通審議会

第69回船員部会

日 時 平成26年7月25日（金） 15：30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員：長谷部部会長、村上部会長代理、箭内委員、
船津委員（欠席）
労働者委員：高橋委員（欠席）、正路委員、野田委員
使用者委員：鶴本委員（欠席）、佐藤委員（欠席）、湯村委員

運輸局：七尾東北運輸局次長
矢島海事振興部長、村木海事振興部次長
遠藤海上安全環境部船員労働環境・海技資格課長
鈴木海事振興部船員労政課長
佐々木労政係長

議 題 （1）管内の雇用等の状況について
（2）その他

配付資料

資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料（平成26年5月分）
資料2 新規求人・求職数（東北管内：3年対比）
資料3 有効求人・求職数（東北管内：3年対比）
資料4 新規求人・求職数（全国）
資料5 有効求人・求職数（全国）
資料6 有効求人倍率（東北管内）
資料7 有効求人倍率（全国）
資料8 「めざせ！海技者セミナーin仙台」パンフレット
資料9 最低賃金の改正に関する検討資料
資料10 人事異動
資料11 新聞情報

議 事 概 要

◎開 会

【村木海事振興部次長】

議事に入ります前に、7月1日付で東北運輸局次長が交代し、七尾英弘次長が着任いたしましたのでご挨拶申し上げます。

七尾次長、よろしく申し上げます。

【七尾東北運輸局次長】

7月1日付で東北運輸局次長を拝命いたしました七尾でございます。よろしく申し上げます。

一言ご挨拶を申し上げます。本来であれば、7月8日付で東北運輸局長も長谷川から永松に交代し、東北運輸局長からご挨拶申し上げるべきところ、今日は業務都合で青森の方に出掛けております。また改めてご挨拶させていただきたいと思っております。今日は私の方でご挨拶を申し上げたいと思っております。

長谷部部会長を初め委員の皆様方におかれましては、日頃より国土交通行政に対しご理解とご協力を賜り、とりわけこの船員の地位向上、それから労働条件の改善等のため、貴重なご意見を頂戴しておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

平成23年3月11日、いわゆる「3.11」でございますが、東北地方の太平洋沿岸地域では甚大な被害がございました。多くの方々が犠牲となられ、また、海事産業ですとか、或いは水産業にも多大な被害があったわけでございます。

当時、私は横浜の鉄道・運輸機構というところに勤務をしておりましたが、鉄道・運輸機構の関係でも、新幹線整備、船舶共有建造等を進めているものですから現場を持っておりまして、多大な被害があったわけでございます。横浜の勤務しておりましたビルにおいても、22階にございましたけども、免震構造であったので非常に揺れたんですね。これはただごとじゃないと、横浜でもそういう状況でした。

その前に勤務していた内閣官房安全保障・危機管理室は、安全保障と危機管理を両方担当している所でございます。

北朝鮮からのミサイル飛来に加え、大きな地震やそれによる災害への対応を求められることが多かったように記憶しております。

当時は新潟の方の地震ですとか、宮城・岩手の内陸の地震ですとか、そういうことで総理官邸に緊急事態だということで参集したこともございます。

ただ、いずれにしても、3.11はそれをはるかに上回る甚大な被害があったわけございまして、復旧・復興は道半ばでございます。これは皆さん、重々ご案内のとおりでございます。東北運輸局といたしましても、これまで海事産業の復興支援に力を尽くしてまいりましたが、引き続き一生懸命取り組んでまいりたいと思っております。

今、船員労働を取り巻く状況ですけれども、海運業における海技資格者不足というのは大分前から言われている問題でございます。船員の高齢化、これは非常に重要な問題でございます。若年船員の確保と育成というのが急務となっております。東北運輸局といたしましても、既に離職船員の再就職支援を行っておりますし、今年秋に開催する「めざせ！海技者セミナーin仙台」というイベントを初めとした活

動などを通じて、人材の確保・育成に努めてまいりたいと思っているわけでございます。

委員の皆様方におかれましては、今後とも船員はもとより海事行政全般にさまざまなご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げて、私の挨拶と代えさせていただきます。よろしく申し上げます。

【村木海事振興部次長】

七尾次長は、この後、業務の都合がございましてこの場を退席いたします。

〔七尾東北運輸局次長退席〕

先ほど七尾次長の方からもご紹介がありましたが、7月8日付で東北運輸局長も交代しております。お話しにありましたとおり、本日、青森の方に出張しておりますので出席することができません。後日、改めてご紹介させていただきたいと思っております。

【村木海事振興部次長】

〔第69回船員部会の成立について報告〕

〔配付資料確認〕

◎議 事

(1) 管内の雇用等の状況について

【長谷部部会長】

それでは早速、議事に入りたいと思います。

お手元にある議事次第の議題(1)管内の雇用等の状況について、事務局から報告願います。

〔鈴木船員労政課長より資料1から資料7に基づき報告〕

【長谷部部会長】

ただいまの管内の雇用状況についてのご説明に関して、質問、ご意見等ございませんでしょうか。よろしいですか。

では、好況期にきていると、なかなか雇用状況はいいという判断でよろしいですか。

【鈴木船員労政課長】

いいと言いますか、求人が全国で見ると高止まりで推移しているので、求職数がだんだん減少傾向にあるかなということ、それは求職者から見ればいい状況ではあると思うんですけども、求人側からするとやはり逼迫状態、まだまだ厳しい状態が続いているというのが出ています。

【長谷部部会長】

求人側からですね。

【鈴木船員労政課長】

はい。

【長谷部部会長】

雇用側からすればそうですね。供給能力がかなり低くなっているということと一緒に、ある意味では景気過熱の状況かなというように見えなくもないですが、これは言い過ぎですかね。商船、漁船の分野でなかなか供給能力が追いつかないと

いう、こういうことかなというように思うんですけども、それ自身、問題状況かもしれません。失業率が高くなっているのよりはいいかなという話ですね。

では、そういうことでよろしいですね。（「はい」の声あり）

色々と言いたい方もあるかもしれませんが、後ほど意見交換のところでご意見を頂戴したいと思います。

では、ご承認いただいたということで、議題の2に入りたいと思います。

（2）その他

【長谷部部会長】

資料8の「めざせ！海技者セミナーin仙台」について、事務局からお願いします。

〔鈴木船員労政課長より資料8に基づき報告〕

【長谷部部会長】

これは、アナウンスということでもよろしいわけですか。

【鈴木船員労政課長】

はい。

【長谷部部会長】

積極的にやっけていただいているようですので、色んな形で参加者が増えるようにご協力いただきたいと思います。

それでは、これに関して何かございますか。野田委員。

【野田労働者委員】

このチラシ、水産高校や宮古の海上技術短期大学校以外にも送る予定はあるんですか。

【鈴木船員労政課長】

配布先としては、ハローワークさん、労働局さんの方も郵送でお送りしたと思います。支局の方はまだこれからですけれども、来週あたりには郵送したいと思います。

【長谷部部会長】

正路委員。

【正路労働者委員】

プラス3社なんですけど、3社増えたところは内航海運の船主さんですか。

【船員労政課長】

そうです。

【長谷部部会長】

よろしいですか。（「はい」の声あり）

その他にございますでしょうか。

ございませんでしたら、アナウンスを聞いていただいたということで、次に進みたいと思います。

委員の皆さんからの情報提供、情報交換ということですが、労働者委員の方から情報提供等ございますでしょうか。

【野田労働者委員】

新聞情報の18ページにあるんですけど、「震災後、50人目の新人漁船員」というこ

とで、先日50人目の方が遠洋マグロ漁船に乗船しまして出港して行ったんですが、船員募集の方も宮城県北部船主協会という協会がありまして、そこで震災後、平成23年に3名、平成24年に13名、平成25年19名、今年に入って14名の方々が、近海・遠洋マグロ漁船に乗り組んでおりまして、今のところ、現在33名がどうかこうにかまだ乗船しているという状況です。中には、海技資格を取得している人、あと講習期間中の人もいて、将来の後継者不足、少しでも改善するのかなとは思っております。以上です。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。

他に、正路委員。

【正路労働者委員】

一昨日、サケ・マス漁業から最終的に切り上げて、いわきの小名浜港に1隻入港してまいりました。今期の成績とすると、漁獲量は決められたトン数というものがありますので増えるということはないですが、何せ、魚価がちょっと安くて、いつもよりも水揚げ高とすると落ちるのかなというところでしたが、実は輸入量、輸入条件が例年よりも低かったもので、何とか採算ラインには乗るのかなというような感じになったという話を聞かされてまいりました。

魚、サケ・マスに関しては、資源量としても、まだいるのではないかというのと言われております。

それプラス、八戸の方ですけども、太平洋のアカイカ操業の方も順次入港してきているそうです。量としても昨年よりはあるそうですけども、また魚価が思わしくないということで、昨年より魚価として2割から3割ぐらい安いのではないかというような話です。

それでも各船、ある程度積んでいったというような話でしたけれども、今後もスルメイカ漁がどういうように推移するかというのが、八戸の方でも心配なところです。実は、去年アカイカの方、ちょっと値段が上がったりしたもので、それで八戸の方の中型イカ釣船でも、これまでトータル的な水揚げで2億というのが無かったんですが、昨年は2億を超えた船もあったそうです。やはり漁船ですので、水揚げがあれば後継者確保・育成というのにも繋がっていくというのがあるので、今年はどうなのかなというところで、皆さん心配されているみたいですね。

新聞情報にもありますが、いわきの小名浜の方でもサンマ船の艀装、順次始まっております。それで、来月の20日、釧路とか根室の花咲港から出港というようになっています。以上です。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。魚価の低迷というのは、7月に入ってからですか。

【正路労働者委員】

実はサケ・マスに関しては、アラスカのブリストル湾でちょっとベニ（鮭）が豊漁だというのがあってそれで安いのではないかということなんですね。

【長谷部部会長】

日本国内ですよ。

【正路労働者委員】

はいそうです。あと太平洋アカイカについては、反対に量があると入ってくるものが多いので魚価が下げられたのではないかという話です。

【長谷部部長】

ありがとうございます。

何かその他にございますか。よろしいですか。

使用者側の方から、湯村委員お一人ですがお願いします。

【湯村使用者委員】

内航の方は相変わらずあまり明るい話題はないんですけども、この「めざせ！海技者セミナーin仙台」にうちも参加させていただくんですが、参加会社を見ますと、私の同業の九州の船会社さんも来ているんですね。やっぱり西の方からだんだん東北の方に人を探しに来ているのかなというような印象を受けました。

恐らくここにいる15社というのは、うちはまた別ですけども、内航でも大手の方なんです。大手の会社ですと若年船員を採用して自社で教育するというシステムがありますので、若い船員を確保できるんですけども、今日の資料にもありましたように、成約した3件がいずれも60歳、66歳というような状況もまた別にあるんですね。それはなぜかという、内航船は約5,200隻を超えるぐらいの船数があるんですけども、その内の70%以上が一杯船主と言われる事業者なんです。そういった方たちは、船員を数名抱えて、それで比較的小型の船を運航するのを生業にしているわけですけども、そういった方々にしてみると、なかなか若年船員は雇いづらいいと思います。

多少年齢がいても即戦力になる船員が欲しいというような状況がありまして、それがこうした資料に表れているのかなと感じました。

あと1つ、組合さんにもお願いも兼ねての話なんですけども、最近やっぱり過重労働で、荷物は多いんですね。ところが、運賃・用船料は相変わらず低迷しているんですけども、そういった中で、なかなか予備員の確保が難しい、金銭的にもまた人間的にも難しいということで、多少過重労働ぎみな状況が久しく続いているんですけども、そうした中で不注意がもとで、この間もお話ししましたけども、色んな事故が多発しているんですね。大きな事故も、タンカーなんかで爆発事故とかありましたけども、その他にも、休業までは至らないような些細な事故が結構頻繁に起きているような状況なんですね。そういった非常に荷物が多い中で、船が休業するような、ストップしてしまうような事故が起きたら、それこそ我々事業者としては死活問題になるので、安全対策も練っているんですけども、その中で、今夏場になって、34度、35度近い気温が続くと、船員さんでも熱中症対策とか、あと一番怖いのが食中毒ですよ。食中毒だったらもう船全滅しますからね。そういった状況が非常に心配なんです。

過去にそういった事例が、食中毒で船が止まったとか、そういった事例があったら教えていただきたいということと、あと我々も当然指導はしていますけども、組合さんとして、組合員に対してそういった指導というのはどういった形でされているのかなと。もし教えていただけるのであれば教えていただきたいです。

【長谷部部会長】

いかがですか。

【湯村使用者委員】

あんまり聞かないんですね、食中毒。ありそうですが。

【正路労働者委員】

そうですね、指導関係で言えば、漁船関係だと専門のコックがいるところが多いので、そうすると衛生については、食材もそうですけども、手洗いは口頭で指導したりとか、あと船内に「食入門」とかというような本も外人との混乗船には配っています。

専門のコックさんがいないところは、船によっては弁当を買ってきたりとか、あと食材を調理する方が輪番でという船についても、やはり冷蔵庫にちゃんとしまうというものは、口頭で指導というようにはなっていますね。

それで、食中毒で止まったという話は、私は聞いていませんね。ただ、インフルエンザでは怪しくなった船というのはあったみたいです。一晩ゆっくりして、セーフというのはあったみたいです。

【長谷部部会長】

野田委員。

【野田労働者委員】

聞いたことないですね、食中毒。

【湯村使用者委員】

組合さんからも今後ともそういったご指導をよろしくお願いします。

【長谷部部会長】

ご協力方、どうぞよろしくお願いいたします。

【正路労働者委員】

ちょっと事務方の方に質問なんですけど、この新聞情報13ページの新6級の関係なんですけど、動きとしてどういう動きですか。

【遠藤船員労働環境・海技資格課長】

こちらで得ている情報では、平成26年の3月に日本内航海運組合総連合会の方から、内航の中小事業者における若手の機関士不足の懸念の話から、国土交通省宛て、6級海技士（機関）の短期養成制度の創設の要望があるということで、新聞に載っていたとおりです。

対応状況といたしましては、下級の資格受有者の現状も踏まえて、あとは要望に対応するために6級海技士（機関）の短期養成制度の創設にあたって、まず国土交通省の中で具体的なカリキュラムとか、そういったものを議論するために懇談会を設置したということです。

それで、関係者による合意形成がなされた段階で必要な法令改正を行うということで進められております。

改正の実施時期については、要望もございまして、平成27年度からの養成開始を希望していますので、それに向けて、本年秋頃を目処に法改正を実施したいというような情報を得ております。以上です。

【正路労働者委員】

分かりました。

【長谷部部会長】

よろしいですか。（「はい」の声あり）

他にいかがでしょうか。

【正路労働者委員】

それに付随してなんですが、今、この短期の養成については、指定されたところでの講習しか認められていないんですよ。数年前なんですが、そういうものをある程度取っ払おうかと、よその地域での講習会もこの短期養成の講習と同等の扱いができないかという話があったんですけども、そちらの方の話というのは、実現はしないですか。

【遠藤船員労働環境・海技資格課長】

そういった情報は特にはないです。先ほどお話ししたとおり、懇談会の中で議論して、どういったカリキュラムにするとか、そういった部分も出てくるかもしれません。

その辺、どこまで議論が進んでいるのか、情報が来ていないんですよ。そういった部分も、もしかしたらあるかもしれないですね。

【正路労働者委員】

分かりました。

【長谷部部会長】

よろしいですか。（「はい」の声あり）

要望等ではないですね。他にいかがですか。何も無いようでしたら、ちょっと早いのですけれども、今日はこれで…。 （「いいですか」の声あり）

どうぞ。

【野田労働者委員】

資料9なんですけども、最賃の関係なんですけども。

昨年、労働側の方から、「沖合底引き」と「大中まき網」の方ですが、航海日当の増額分3,700円の要求に対し、2,000円のアップになったんですけども、今年はその取り残し分の1,700円もありますので、是非最賃部会を開催の方をお願いしたいなと思います。

【長谷部部会長】

資料9に関しては、今日はアナウンスだけ、参考資料として配付ということだったので、そういう要望があったということでお引き受け下さい。よろしいですか。（「はい」の声あり）

検討資料等、皆さん、後で熟読しておいて下さい。

他によろしいでしょうか。なければ、これで閉じたいと思います。

◎閉 会